



2015.7.1

## 7月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園  
神戸YMCAちとせ幼稚園

野生の猿は群れをつくり、その中でそれぞれの猿は自分の役割を果たし、餌を確保し、敵から自分たちの群れを守っていくという行動を、成長する中で学んでいきます。自然界は、弱肉強食の世界ですし、もちろんみんなが平等という訳ではありませんが、それぞれの猿は生きる知恵を学び、生きる力を生活の中で積み上げていきますし、またそうでなければ生き残ってはいけません。しかし、これとは対照的に人間に飼いなされた猿回しの猿は、人間から指示された芸を披露することで餌を与えられ、人間に守られ安全に生活は出来るかも知れませんが、そんな猿の姿は哀れであり、寂しげに見えます。イルカパークで芸を仕込まれるイルカの捕獲についても話題となりましたが、ショーで様々な演技を披露してくれるイルカも、本当は大海原を自由に泳ぎ回りたいたらうにと哀れに思うのは私だけでしょうか。

子育てもともすれば、大人が望む子どもの将来のために、何の疑いもなく子どもの行動を命令・干渉・制限している場合があります。また、子どもも親の期待に沿うことが、親から認められることにつながり、場合によっては、親の示した目標を達成することで褒められ、ご褒美を受け取るといった子ども時代を過ごすかも知れません。はたしてそのように成長した子どもが、自分で自分の目標を見出し、自分の進むべき進路、職業を選び取ることが本当に出来るのでしょうか。子ども自身も成長する中で自分の意思を持つ様になり、場合によっては、親が「こうさせよう」、「この学校へ行かそう」と考えて子どもに勧めることや指示することに、子どもは反発してまったく反対の道を子どもが選ぶ場合があります。子どもの気持ちの中に、「親の言う通りにはしたくない」、「自分の将来は自分で決めたい」という気持ちがあって、ひょっとすると親がそこまで言わなければ、子ども自身が自らその道を選んだのかも知れないのではないかと思えるケースを何度も見てきたように思います。

今の時代、「こうしていれば将来間違いがない」という指針はありません。人生の幸福、成功をはかるものさしも、人によってもまったく異なります。親や教師の期待する答え、望む行動ばかりを追い求めて成長するならば、自分の人生を生きたという実感を持たずに過ごすこととなります。そんな人生からは、自らの人生を楽しむことは出来ないでしょう。自分で考えてやってみて、それで失敗することがあったとしても、「自分で生きた」、「自分を生きた」という実感を持っていけば納得がいくものです。

幼少年期には、子どもの世界の中で、子ども同士の関係を中心とした遊びの経験が必要です。自分の興味関心がある遊びから、探求する心が育ち、工夫することを学びます。また友だち同士の関わりから人間を知り、そして何より自分自身を知っていくのです。子どもたちが、いつも親や大人の目ばかりを意識して過ごすのではなく、自分で考えて自分で判断し、行動できる人間として成長することを願っています。

年主題 『平和』をつくる

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

(マタイによる福音書5章9節)

7月主題 「やってみる」

聖句 “主はわたしたちを造られた。わたしたちは主のもの、その民、主に養われる羊の群れ”

(詩篇100:3)